

「日中植林・植樹国際連帯事業」清華大学学生訪日団第2陣 参加者の感想（抜粋）

佐賀・福岡コース（1・2・3号車）

○多くの同級生たちが私と同様、日本の環境の清潔さに深く印象づけられたことだろう。日本では、街を清掃する専門の作業員は少ないと聞いて更に驚いた。しかし、それらは陰で日本の国民一人一人が、私たちが「面倒だ」とか、「不便だ」と感じる些細なことを我慢して得た成果なのだ。中国の国民の平均的素養と日本の国民のそれとは、確かに大きな差があるが、政府が今後この分野の宣伝・教育を強化すれば、この差は小さくなると信じている。日常生活において小さな文化的習慣を養うことの他、民泊中に触れた日本人の生活態度にも敬服した。彼らは自分の生活のために、常に充実した楽しみを見つけようとしている。これは中国だけでなく、他の諸外国も国民に学ぶよう指導すべき点だ。このような心構えで生活や仕事に臨めば、生活への意欲を維持できると共に、自己価値の実現という満足感の形成を促すことができる。

帰国後、まず家族と旅で得た大きな収穫を共有したい。なぜなら、彼らは日本の人々の状況をよく分かっておらず、日本政府に対して偏見を持っているからだ。しかし、私自身の体験をもって彼らの日本に対する不十分な印象を補い、日本という多元的な国を受け入れて欲しいと思う。

○今回の訪日で、私は日本という国と日本人に対して生き生きと深い理解を得ることができた。中国の古い詩に「書物から得た知識は浅はかで、実践してはじめて深く理解できる」という一文がある。これは、自ら実践することの重要性を強調した言葉で、今回の旅はこの言葉を証明し、正に「百聞は一見に如かず」だった。

都市の構造について、東京都には「ちょうど良い」魅力を感じた。北京の広い通りや歩道橋、大型店舗とは異なり、東京の通りはかなり狭く、ホテルのテーブルやいすも細長く並べられ、空間を大幅に節約していた。でも、決して狭苦しい感じはしなかった。なぜなら、この大きさが十分であり、大き過ぎず、小さ過ぎず、設計者の空間活用と人への配慮の知恵が現れていた。また、東京は人口密度が高いが、深刻な交通渋滞はあまり見かけられず、ドライバーは高速道路を運転しているかのようで、歩行者の道路横断時間も短い。このような高い効率と秩序が交通状況全体を良くしている理由だろう。これは北京の交通管制でも、ある程度参考にする意義がある。

環境と防災分野では、都市景観は市民一人一人の行動によって維持され、人々の高い意識に加え、合理的な制度による指導（例えば、唐津市のごみ分別回収政策）は、政府の管理コストを削減するだけでなく、清潔な都市景観の常態化につながる。日本の防災分野は大変行き届き、防災訓練も日頃から行われ、市民一人一人の防災意識と自助能力を高めている。災害発生時、政府の救助隊員派遣に限界があっても、大きな影響を受けない。周りの環境を清潔に保ち、災害時の自助能力を備えることは、各自が意識して行うことで、従って政府が行うべきことは、すべての国民の環境保護と防災意識を高めるため、より多くの指導を（楽しめて、かつ効果的な方法で）行うことだ。

○大学と日中友好会館が今回の機会を与えてくれたことに大変感謝している。来日して日本の文化や生活を体験し、多くのことを学ぶことができ、光栄に思う。

一番印象深かったのは、日本の防災・地震対策、及び人々の環境保護意識の高さだ。九州での見学中、「海岸のごみ拾い」の参加者数は都市の総人口の1割に達すると聞き、また、民泊先の奥さんは環境保護のために赤ちゃんに布のおむつを使っていた。これこそ、中国に欠けていて学ぶべきことだと私は思う。中国では、毎日街を清掃作業員が掃除をしているが、自分たちの力のみで掃除をしている日本ほど

清潔ではない。帰国後、多くの同級生や周りの友人に日本人の環境保護の素晴らしい措置を伝えるつもりだ。他の面では、日本人が普段の生活の中で、互いに敬意を表すことに敬服し、また、幼児教育に関して、民泊した家庭の和やかで温かい雰囲気を感じることができ、日本男性の亭主関白のイメージが変わった。日本科学未来館の体験で多くの先端科学技術を見たが、分かりやすく興味溢れる方法で、子どもはより早い時期から先端科学技術を理解できる。もちろん、防災の宣伝用冊子も漫画を使っており、日本の教育モデルが興味に溢れていることが分かった。最後に、私が最も惹かれたのは日本の職人魂だ。大学、国会議事堂などの見学中に深く体感した。この職人魂を自分の研究生活にも応用するつもりだ。短い7日間の日本での生活を充実し楽しく過ごすことができ、全行程に随行してくれたスタッフに感謝している。機会があれば、また来日したい。

○1. 日本文化に対するより深い認識を得て、日本人の礼儀正しさ、積極的な生活態度、高い素養には大変驚き、日本人に対する好感度が上がった。帰国後は、周りの同級生と今回の体験を共有し、日本の社会文化における優れた点を学びたい。

2. 日本の環境保護は素晴らしく、多くの地区が非常に清潔で、塵一つない。これには、日本の政府、企業、国民の三者による共同の努力が欠かせない。日本政府は環境保護を非常に重視し、環境保護教育、ボランティア活動などにより、コストを抑えて素晴らしい環境を創り上げている。

3. 日本の防災メカニズムは大変整っている。日本は地理的位置が特異であるため、自然災害は避けられないが、日本人はこれらに対応する多くの方法を持っている。例えば、子どもに対する防災教育、防災体験館の設立、楽しみながら学び、イツモ型の防災知識を普及させている。あいにく訪日期间中、日本は台風と地震に見舞われ、中でも台風は関西空港の機能を麻痺させた。しかし、日本は僅か4日足らずで運航を再開させた。ここからも日本が災害対応の経験が豊かだと分かり、大変感心した。中国も災害が多い国なので、日本の経験に十分学ぶべきだ。

4. 日本は飲食、交通、買物、レジャー、娯楽など多くの面で中国と似ているが、異なる点も多い。周りの同級生と日本での生活を共有し、彼らにも訪日を勧める。私も2020年の東京オリンピックには友達と一緒に再来日するつもりだ。

○日本の人々の環境保護意識の高さ、清潔でごみがほとんどない街の通り、青空と澄んだ空気、環境保護が行き届けば、そこで生活する人は大変快適なのだと思身で感じた。座学が多く、ごみ分別の体験や回収現場の見学、防災訓練ができなかったことは残念だ。

中国ではごみ分別の普及は大変遅れており、北京や深圳などの大都市できえ、ごみの分別はほとんど行われていない。一部の地域では、ごみを分別した後、ごみ収集車に入れる時にはさまざまなゴミが混ざり合ってしまった。資源ごみの分別は、主にごみ回収業者に委ねており、その業務環境は非常に劣悪だ。資源になりうるごみが、きちんと分別回収、再利用され、ごみ燃焼時の熱利用による発電ができれば、資源の節約になるだけでなく、環境汚染も防ぐことができる。唐津市で段ボールやビンが、まるで工場の原材料のようにきちんと並べられているのを見て、中国でもこのような一幕、ごみ回収業者が悪臭の中、ごみをかき分けて分類するのではなく、ごみを減らすために皆で努力する、そんな場面が見られる日が来るよう心から願っている。

日本はごみ分別を既に数十年実施しており、数世代の人々がたゆまぬ努力をしてきたからこそ、今日の清潔な街の通りがあるのだ。変化は一朝一夕で起きるのではない。今日から、自分から、再利用、リサイクルできるものとそれ以外のごみを分別し、その方法を周りの人にも伝え、祖国をもっと美しくしたい。

○日本は災害が頻発する地理的位置にあるため、地震や津波、台風などに対する防災対策はかなり整っている。より重要なのは人々のそれらに対する意識を高めることで、幼い時から始めてこそ、人々は教育で得た対処法を意識して行動できるようになる。

唐津市のブリーフを聞いて、日本には街を清掃する専門の作業員はいないと知った。しかし、目にした日本の通りはどこも大変清潔で、これは本当に不思議なことだった。中国ではもしかすると、かなり高額な経費と長い年月がかかるかもしれないし、全く不可能かもしれない。日本の高齢化現象は知られているが、数日の視察・交流中にこの点も目にした。例えば、日本科学未来館のスタッフ、特に館内の解説員の年齢はかなり高く、これは中国とは大きく異なる。通常、中国の科学技術館などの解説員はほとんどが青年だ。駅や空港などの職員も、中国の同業従事者より年齢が高かった。日本のハイテク産業は発達し、中国市場でよく見られるカメラは、ほぼ日本製で、家電製品も日本メーカーのものが多く。日本人は多くの人々が国産車を使い、路上で一番多く見かけたのはトヨタ製の車だった。中国の道路が中国メーカーの車で占められる日が来るよう願っている。素晴らしい環境保護意識、真摯な態度、礼儀正しい対応が組み合わさり、それが日本人の国民性の一部を形成している。今後、機会があれば再来日し、より多く、より深い体験をして、日本の友人を作りたい。

○今回の活動は環境保護をテーマとする活動で、所々に観光地の見学を挟み、学習からの収穫だけでなく、名所旧跡を巡ることができ、全体的に大変良かった。

植樹活動に代表される環境保護分野は、日本は中国と比べ、多くの進んだ点がある。国の経済発展の過程で、環境の破壊から保護への道を辿るが、日本には多くの長所があり、学ぶに値する。しかし中国では、ほとんどの人がごみ、環境保護は主に政府の責任と考えており、個人の力は小さいため、皆が守らず、環境にやさしい発展というスローガンは政府が唱えるだけで、民衆の参加意識やそのレベルも十分でない。これにはプロセスが必要だ。

防災分野については、今回の活動で関連のある講座を聞き、災害シミュレーションを体験した。中国と比べ、日本は地理的に災害が多発するため、防災意識も進んでいる。カリキュラムの研究開発により、より生き生きと、面白く、楽しみながら学べ、学生がより受け入れやすくなっている。またシミュレーション体験を通して、危機に面した際、落ちついて対処できるようになる。これらは、中国でも普及を試みているが、ハード面でもソフト面でも大きな差がある。私は防災教育を受けたことがあるが、シミュレーション体験は少なく、日本での今回の体験は、私にとって人生で2回目の系統的な学習だった。

まとめとして、より多くの人に日本人の情熱、友情、真心を伝え、機会があればまた日本に来たい。

○私は幼い頃から島で育ち、幼い頃もよく地震に遭い、台風は毎年来るので、日本の防災意識には大いに同感した。日本の具体的な防災活動の実施、広範囲に行われている防災教育に比べ、中国人はこの分野での意識がかなり低い。「憂患に生き、安楽に死す」とよく言われるが、中国でも四川大地震のような自然災害が発生しているのだから、中国人は大自然に対する危機意識を日本に学ぶ必要がある。

幼い頃から始める、とよく言われるが、実際には、子ども向け学習資料はとても無味乾燥で、形式に流されている。セミナーで学んだ「イザ！カエルキャラバン！」であれ、唐津市の環境保護教材であれ、日本では楽しみながら学ぶという点が徹底されている。

主催者はさまざまな活動を通じて、環境・防災・環境保護・飲食・交通及び生活などの日本の文化を深く理解させてくれた。私たちは一般の日本人の生活を体験し、多くの旅行者が体験できない細部まで体験した。これらの過程で、従業員であれ、通行人であれ、日本人が友好的で、礼儀正しいことを深く感じた。また、社会秩序が整い、国民一人一人が自覚的に社会秩序を順守し、清潔な生活環境を維持し

ていることを感じた。これらは私たちが参考にする価値がある。

○日本の細部まで突き詰め、考究する点は、称賛に値する。サービスが行き届いていることは周知の通りだが、内側と外側の座席のシートベルトの色の区別、ホテルの歯ブラシの色の区別、これらはすべて長い間模索して蓄積されたものであると共に、良好なサイクルとなり、真摯さや細やかさが遺伝子に刻まれた日本人の国民性であると言えよう。この分野で、私達は多くの学ぶべき点があり、形だけでなく、その精神も会得すべきだ。また、日本は中華文化からたくさんの養分を汲み取り、独自の文化を創り上げ、それによって全世界に影響を与えている。これは文化の影響力拡大を当面の急務としている中国にとって、参考にし、考えるべき点が多い。唐津の民泊体験では、両国の間に何が起ころうとも、人々は常に純朴で友好的展望を持ち続けてきたことが分かった。偏見は隔たりを生み、隔たりは誤解を深めるが、実際に見て、聞いて、話して、十分に交流してはじめて硬い氷が融け、誰もが全く新しい明日を迎えられるのだ。私はこのような明日への希望に満ち溢れ、このような日が一日も早くやってくるよう願っている。

○今回の訪日活動で、一番印象深かったのはホストファミリーのお宅で民泊体験したことだ。お父さんは寡黙な人だが、心から私たちを気遣い、配慮してくれた。農作業の体験のため、お父さんは私たちのために、新しい鎌と手袋を用意してくれ、豊富多彩な体験をさせたいと、大変苦勞してコンバインを運んで来てくれたのだ。その後、私たちを海辺へ釣りに連れて行って、夜は体験が終わった後、車で海のおそばの温泉に連れて行って、日本の家庭の風呂文化を体験させてくれて、全身の疲れも瞬間にとれた。ホストファミリーのご夫婦は、たくさんのぬくもりと感動を与えてくれ、素朴な風習に心を動かされたり、深く感動したりした。是非、ホストファミリーの一家のような日本のご家庭にも中国に来て、同じようにぬくもりのある中国の家庭文化を体験して欲しい。

また、明治大学博物館と九州大学の訪問で、日本の大学の学術文化を初体験し、学術には国境はなく、学術交流にも国境はないと感じた。日本の防災に対する努力にも目を見張るものがあった。国民の主体性を十分に促すことが、一つのことを確実にを行うための最強の動力であり根源なのだ。

滋賀コース（4・5号車）

○日本の治安はとても良い。民泊時に驚いたのは、彼らは出かける時、戸締まりしなくてもいいことだ。更に、日本では地下鉄でも、新幹線でも保安検査をしない。これは中国とは大変異なる。団員の中には忘れ物をした人もいたが、例外なくすべて見つかり返ってきた。このような素養の高い都市文化は非常に得難いものだ。しかし、これには歴史、文化、発展レベルなど複雑な要因が絡んでいる。このような社会文化を中国の仲間と共有したい。

○来日して最も印象深かったことは、日本の環境が清潔で美しく、通りや街角、商業施設や公園でも、更には田舎の小道でさえも少しも乱雑なところがなく、ごみも悪臭もなかったことだ。中国と比べ、私が見た日本の環境はまるで天国のようだった。中国も今後更に環境衛生と環境保護に注意し、緑の山と澄んだ水を取り戻したい。

今回の旅では、偶然台風上陸に遭遇した。百年に一度の大型台風だそうだ。はじめは少し怖かったが、周りの人たちは秩序正しく、混乱することなく、積極的に防災対策をしていた。これは強大な防災施設と技能の支えがあってこそできることで、中国も学ぶべきだ。

来日前から日本人は非常に礼儀正しいと聞いていたが、来てみると想像以上に謙虚で礼儀正しく、「お

はようございます」「こんにちは」「ありがとう」の挨拶が常に交わされ、聞いていてとても親しみやすく、自分も思わず挨拶し、すがすがしい気持ちになった。

○伝えたい情報：先進国としての日本が中国を啓発できることは、経済発展分野だけに留まらない。中国も自国の国情に照らして、より多くの社会組織モデル、文化、環境教育などの分野の経験を参考にすべきだ。中国の発展は、北京、上海、広州、深圳などの都市に留まるべきではなく、独自の特色を備えた中小都市、高い生活の質を備えた農村地区も学ぶ対象とすべきだ。中国の農村の基礎組織が都市化の衝撃を受け、ますます崩壊しつつある時、農村のコミュニティーの自治モデルは、もっと重視されるべきだ。

○日本の生態環境及び防災等の分野の意識は大変進んでいる。生態環境の発展の勢いが良好な先進国として、日本の環境整備の道は発展途上国が参考にし、学ぶに値する。また、防災のビジネス化も国民の生存力強化に寄与し、幼い頃から成人まで広げる方法にも工夫が凝らされている。

○今回の日本の旅では、都市・農村を問わず、日本の国全体が清潔なことに大変驚いた。これはある程度、日本の整備されたごみ分別制度と厳しい汚染基準によるものだろう。中国では、北京のような大都市でさえ、都市全体の景観において改善すべき点が多い。ごみ分別制度の施行は、政策制定の整備に頼るだけでなく、国民の義務感と意識にも頼るべきだ。従って、市民に対する政策の宣伝と教育をいかに効果的に進めるかが中国の都市景観改善における大きな課題だ。また、日本の生態環境は整備を経て大きく改善した。汚染した後で整備する道を辿ることはあまり健全ではない。中国はやはり修正と回避に努めるべきだ。健全な生態環境は、国の発展にとって、また国民の生存にとって非常に重要な戦略的地位に位置づけられる。私たちは、日本の経験から教訓を汲み取り、環境改善の成功例に学び、中国の深刻な汚染の現状の改善に努めなければならない。

○植樹活動、東京スイソミル、日本科学未来館などの視察・交流活動に参加し、観念や習慣における日本と中国の多くの違いや、日本のサービス業、商業、科学技術産業の雰囲気と特徴が感じられた。

まず、一番強烈な印象を受けたのは、日本国民の他人に対する礼儀正しさと気配りだ。「できるだけ他人に迷惑をかけない」という観念は、日本人がエレベーター、カフェ、ひいてはラーメン屋でも自発的に秩序を保ち、他人が道を塞いでいても、声を上げて退かせることはなく、黙って通り過ぎていく。これに付随する日本のサービス業の顧客や旅行者に対する態度も印象深い。銀座のデパートの店員は終始笑みを絶やさず、エレベーター係は閉店時も責務を尽くして顧客をエレベーターへ案内し、道を尋ねたなどの通行人も温かくて辛抱強く、都市に更なる魅力と人情味を与えている。

○私の専門は災害と少し関わりがあるので、防災分野についての印象がかなり深い。日本の防災教育において、私たちが参考に値する点がたくさんある。①防災の宣伝：日本では大変うまく防災を宣伝している。中でも、セミナーで聞いた「イザ！カエルキャラバン！」はゲーム形式で子どもたちを積極的に参加させ、保護者も巻き込み、国民全体の防災能力を高めている。②モシモ型防災に代わってイツモ型防災が、そして脅し型の宣伝に代わって呼びかけ型の宣伝が、人々の災害に対する恐怖心を軽減している。③防災活動と企業活動の結合。これは大変良い考え方であり、もし本当にこの事業が利益を出せるレベルになれば、同事業の更なる発展の促進につながるだろう。中国は現在、安全に関する業務は主に安全点検で、自然災害に対する防災業務も政府レベルの指導が主で、防災宣伝業務は相対的に少なく、この分野で日本政府に学びたい。

○植樹活動を通じて、日本国民の環境保護意識の強さを認識し、大変驚いた。立命館大学の講座でも、EKC曲線（環境クズネツ曲線）には、国の経済発展過程における環境の質の変化に対する指導的意義があることを、ある程度理解できた。中国は現在もなお発展途上にあり、EKC曲線の左側に位置している。できるだけ早くEKC曲線の右側に位置させるように国をいかに発展させるかは、深く考えるに値する問題だ。これも中国が絶えず産業高度化と再編を強調し、供給サイドの構造改革の宣伝に尽力している理由の一つだ。この点で、日本の過去の失敗の教訓と成功の経験は、大いに学び参考にする価値がある。もう一つ大変印象深かったことは、日本の農業の機械化レベルの高さだ。日本滞在中、農家に1泊し、翌朝、ご主人が米の脱穀と袋詰めするのを手伝った。僅か1時間で、米41袋分の脱穀と包装が終わった。これには高効率の機械の助けが欠かせなかった。帰国後、ここでの素晴らしい思い出を積極的に友人に伝え、日本に交流や学びに来て、隣国を友とし、師とするよう勧めたい。